

ひろがりサロン

第20号

発行日 : 2017年12月25日
発行回数 : 年2回発行
発行者 : ひろがりサロン
責任者 : 小椋 純子
連絡先 : 045-962-2775
活動場所 : 横浜市鴨志田地域ケアプラザ
2階多目的ホール
-----活動概要-----
活動日時 月曜日 10時～15時30分
(除く第3月曜日)
料金 利用料 700円
食事 500円(昼食・おやつ)
その他 介護保険とは関係なく利用できます

最近思う事

高山 好主

私の家には鬼胡桃の木があります。これはもう何十年か前に長野県の田舎から持ってきたものを播いて芽を出したものが大きくなつたもので、秋には実を収穫します。

八月初めに胡桃の木の枝を落としました。予定は、九月になつたら行うつもりでしたが毛虫が発生し、このままだと毛虫や蛾が隣近所の迷惑になりそうなので(もう迷惑になっていたかもしれない)急遽 作業をしました。

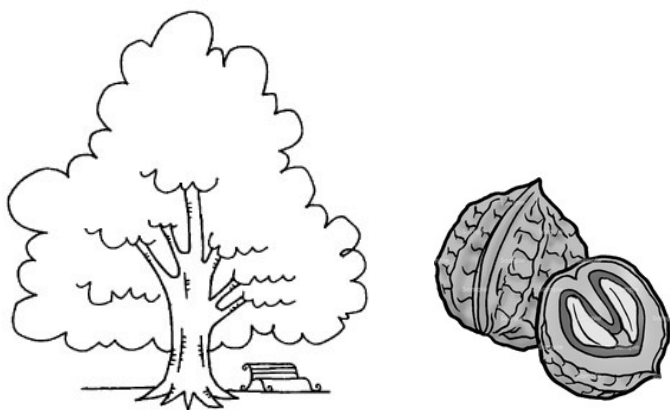
予定の時期より一か月も早い作業のため胡桃の実はまだ充実しておらず収穫は出来そうにありませんでした。(残念！)

落とした小枝を袋に収めているときに枝先には来年の花芽がしっかりとできていました。枝を落とさずに於けば来年胡桃になる物です。また、枝の途中にはふくら

としたふくらみがあり、来年の雄花になる部分も出来上がっています。

植物は冬の寒さを乗り切つて来春に花を咲かすために早くから準備をしています。

「ひろがり」も来年、再来年を見据えて、活動したいものと考えます。



ひろがりサロン 予定

2018年1月8日, 22日, 29日
2018年2月5日, 12日, 26日
2018年3月5日, 12日, 26日

エネルギーもあたたか!

島田久実子

四月二八日「草間彌生展」

に行ってきた。水玉模様に真つ赤なおかつば頭がトレードマークの、世界的に有名な芸術家である。御年八十八歳。車椅子にはなつたが、今なお精力的に毎日絵筆をとっていらつしやる。

まず会場に入ると、広うい部屋中なんとも明るい色のオンパレード。四方の壁には全面原色の抽象画がびっしり。床にはプラスチックでできたこれも原色に彩られた巨大な花々。この部屋だけは写真撮影オーケーだなんて、こんな展覧会は初めてだ。みんな楽しげにおしゃべりしながら写真を撮り合っている。この彌生さんのエネルギーに圧倒されたか、なんだか暑くなってきた。思わず上着を脱ぐ。絵は、自分の中に現われ出てくるものを次々と描いているよ

うだが、水玉やら顔やら目やらたくさん出てきて、正直よくわからない、けれど楽しい。またタイトルがいい。「花に包まれた地球は戦争のない平和を待っている」「微笑みの人間美」「恋は呼んでいる」「生きる喜び」...

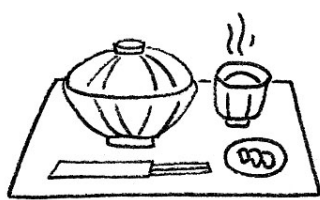
次の部屋からは若い時の作品が並ぶ。一転して暗い。でも何か引き込まれて私は好きだ。その時代のものは、ただ編み目を描いたものや家具に白い突起物を付けたものや、うぐむ、こういうものを経て今に到ったのか...

あのカツと見開いた目といい、彌生さんは「芸術は爆発だ!」と言った岡本太郎さんと似ているような気がする。それにしても、死んでも描き続けたいというあのエネルギーは、いったい何処からくるのだろうか? この展覧会は老若男女に凄い人気だ。みんな彼女のエネルギーをもらいに来るのかな?

さあ、ボォーとなんかして

られない。パツと目を見開いて、前に進もう。

(島田さんは四月に週年記念の会で「ねころびと」とともにコンサートを行っていただきました。)



バス遠足

平野千鶴子

「箱根に行きたい」と上平さんの提案で行き先は決まった。

道路状況は? 天気は? トイレ休憩? 心配はいろいろあったけれど、細心の準備もしながら当日、急遽行けなくなった小椋代表の見送りを受けて出発した。高速道路の左右に、幾重に重なる緑を車窓に、楽しみながら到着した、プリンスホテルは、木立の中に佇んでいた。

昼食はバイキング、日本人は「ひろがり」の仲間だけと言ういつにない雰囲気漂う中で食事を楽しんだ。

お腹が満足したところで、ホテル周辺を散策。おしゃやかな洋服、小物店等を抜けると、芦ノ湖畔に出た。さわやかな風に癒されつかの間の避暑気分を満喫した旅でした。

皆様の御協力、御好意で無事に終えました。有難うございました。

キッチンにて 想う事

安保 秀子

ひろがりのキッチンスタッフとして八年になりました。

現在のキッチンでの事情を少しだけお話ししましょう。

八年前と比べスタッフの人数は五、七人とあまり変化はありませんが料理の内容は少しずつ変わっています。ケアプラザで月四回になるときの一回は外食会となり誕生会はケーキを外注するようになりました。キッチンの負担を減らそうという暖かい思いやりだと感謝しております。利用者さんの方々も少しずつ年を重ね食事の内容なり好みなりが少しずつ変わります。あると思います。どうか負担になるものや食べにくいものがありましたら遠慮なくキッチンスタッフに声をかけて下さい。もちろん好き嫌いや要望なども是非遠慮なく率直に言っていただきたいと思っています。



私達には初回からのメニューなりが記録されているキッチンノートがあります。改めて見てみると日本には四季があり暦に従い各種の行事がありその時節柄の食事が提供されていることを再認識させられるようなノートです。私など折々に作って食してみたいものがいっぱいあります。食べることはそれこそ生きることそのものだと思いますのでキッチンを利用して下さい。

*** ひろがり歌壇 ***

梅田 ひさ子

亡き母を 恋ふる歌詞をば 口ずさみ

幾つになるも 子は児たりてふ

人に逢ひ 人と語るは 生甲斐も

猫と話すは 心の癒ゆる

黒板に 数字書き置く 我なれど

理由を忘れて とまどひしおり

朝食を 喰みつつ昼餉 考ふる

主婦の頭は 休むこと無し

初めての ボランテニア活動

大坪克己

子供の頃は、毎日、学校の校庭で、日が暮れるまで野球をして遊びました。

学生時代は連日、部活の剣道に打ち込みました。そして、社会人になると、それなりに真面目に休まず会社に通い、物造りに励みました。定年延長し、もうそろそろいいかなと感じたので、サラリーマン生活に別れを告げ、昼間は女房と二人きりの生活で幸せいっぱいでした。

しかし、すぐに自分に合わないことに気づき、だんだん、家から出るようになりました。先ず、遠ざかっていた剣道を再開し、五十代に始めた同好会のテニスに出るようになり、退職後女房と始めた社交ダンス教室に数多く通い、いわゆる趣味中心の極楽とんぼの生活が十年近く続きました。

人間として、このままで良い

のであろうかと疑問に感じ始めた昨年の十一月に、テニス仲間の藤平さんから、「ひろがりサロン」に参加しないかと誘いを受け、渡りに船と参加して、現在に至っています。

非社交的で会話が苦手な自分に務まるのかと懸念しましたが、だんだん、利用者やスタッフの方とも打ち解けて会話できるようになりました。新聞や雑誌に目を通し、懐メロも覚え、更に会話能力を高めていきたいと思っています。

周囲の方に不愉快な思いをさせないで、自分も楽しむのが継続のコツだと思います。

利用者を楽しんでいただき、ますよう、スタッフの皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻を願います。



ホームページ は次のところにあります。
http://www.geocities.jp/hirogari_salon/
(「ひろがりサロン」で検索しても OK。)

ひろがりサロンは

「あおばふれあい助成金」
「年末たすけあい配分金」

を受給して活動を行っています。

＊＊ 編集後記 ＊＊

＊ 「ひろがり」二十号がやっと出来ました。年間に二回発行の予定が一回になりそうです。

＊ 平成二九年は、パンダ誕生、秋篠宮眞子さま婚約内定、将棋の藤井四段が二九連勝等明るいニュースがありました。平成三十年にはもっと多くの明るいニュースがあると良いと思います。

(高山)